

著者紹介（執筆順，*は編者。①所属，②主要業績）

*小島秀夫（こじま・ひでお）

第1章・第2章・第3章・第9章・第11章

① 明治学院大学法学部教授

② 『幫助犯の規範構造と処罰根拠』（成文堂，2015年）

「共謀概念の言語哲学的考察」大東法学30巻1号（2020年）1-29頁

『授業中刑法演習：われら考える，故にわれらあり』（共著，信山社，2021年）

田村 翔（たむら・しょう）

第4章・第5章・第10章

① 明治大学法学部助教

② 「過失犯における責任要素について」法学研究論集48号（2018年）63-81頁

「過失犯の規範構造の解明に向けた一考察：とくに予見可能性と事実上の因果経過との関係について」『市民的自由のための市民的熟議と刑事法：増田豊先生古稀祝賀論文集』（勁草書房，2018年）169-184頁

「自動走行車の刑事政策：とくにその運転者における刑法上の過失犯処罰の限界をめぐる」NCCD - in JAPAN56号（2018年）19-37頁

柏崎早陽子（かしわざき・さよこ）

第6章・第7章・第8章

① 大東文化大学・駿河台大学法学部非常勤講師

② 「罪刑法定主義と法定された正当化事由」『市民的自由のための市民的熟議と刑事法：増田豊先生古稀祝賀論文集』（勁草書房，2018年）13-28頁

「国家による救助のための拷問に関する批判的考察」法学研究論集52号（2020年）1-20頁

『「権利」としての正当防衛：正当防衛権の基礎づけと制限』（明治大学大学院法学研究科博士学位論文，2021年）

竹内健互（たけうち・けんご）

第12章・第13章・第14章・第15章

① 甲南大学法学部准教授

② 「教唆概念の構造と位相」駿河台法学31巻1号（2017年）113-158頁

「刑罰のコミュニケーション的機能について：表出的刑罰論は第三の選択肢となり得るか」『市民的自由のための市民的熟議と刑事法：増田豊先生古稀祝賀論文集』（勁草書房，2018年）261-276頁

「刑罰の表出的意味としての『非難』について」駿河台法学35巻2号（2022年）51-73頁